

令和5年 丹波市10大ニュース

【ふるさと創造部総合政策課】

No.	タイトル及び説明
●	<p>県内初・オーガニックビレッジ宣言</p> <p>丹波市は、本州一低い中央分水界と山々に囲まれた自然地形を有し、日本海と瀬戸内海につながる清らかな水が湧き出す。この特徴的な地形は、豊かな自然や文化、歴史を育んできた。これら豊かな里山の暮らしを、未来の子どもたちに引き継ぐため、農業生産者だけでなく、広く市民や企業がそれぞれの立場で参画し、手を取り合いながら大切な地域資源を守っていくまちづくりを目指して、県内初の「オーガニックビレッジ」を宣言した。</p>
●	<p>高校生までの医療費無料化</p> <p>子育て支援の観点から医療における経済的負担の軽減を図り、こどもを安心して生み育てられるまちの実現のため、令和5年7月から高校3年生までの保険診療に係る自己負担額の助成を始めた。今まで中学校3年生までを対象に所得制限を設け市が福祉医療費として負担していたが、令和5年7月以降の診療分について、所得制限を撤廃し対象を中学校3年生から高校3年生までに拡大した。</p>
●	<p>丹波市高校魅力化支援事業「氷上西高校にeスポーツ部」発足</p> <p>市内の県立高等学校が、地域、地元企業などと協働し、特色のある教育や高等学校の魅力化を図る取組に対して支援を開始した。</p> <p>県立高等学校の魅力化を図ることにより小中学生の学ぶ意欲を高め、多様な人々と交流し地域と触れ合うことで、ふるさと意識の醸成につなげ、丹波市の将来を担う人材をはぐくむことを目的とする。</p> <p>今年度は、兵庫県立氷上西高等学校におけるeスポーツ部の立ち上げを支援した。</p>
●	<p>市内の路線バス年間利用者が10万人台にV字回復</p> <p>丹波市内の路線バス利用者数は、人口減少やモータリゼーション普及の影響を受けて長らく減少傾向にあったが、利用しやすい体系への路線再編や通勤・通学に便利な時間帯の便追加、路線の延伸等の利便性向上により、通勤・通学利用が習慣化するなどし、令和2年度には48,681人にまで落ち込んでいた乗車人員が増加に転じ、令和4年10月1日から令和5年9月30日までの1年間で130,567人となった。</p> <p>利用者増が便数増などの利便性向上につながる好循環が生まれており、さらなるバス路線の充実が期待される。</p>
●	<p>山南中学校の開校・市島地域の小学校統合</p> <p>平成31年に統合が決定された山南中学校と和田中学校の新校舎建設工事が完了し令和5年4月に（新）山南中学校が開校した。</p> <p>新校舎には山南地域に伝わる伝統技術「桧皮葺き」を内装に用いたランチルームや本に親しみやすいガラス張りの図書室、教科の展示や学習の場となる教科ギャラリー、先生の授業準備に活用できるサポートルーム、電子黒板の設置など、最新の教育環境を整備した。</p> <p>また、市島地域では吉見小学校と鴨庄小学校が統合し、令和5年4月に統合式を挙行了。今後、令和6年4月に竹田小学校と前山小学校、令和8年4月に吉見小学校と三輪小学校がそれぞれ統合する。</p>

No.	タイトル及び説明
●	<p>「丹波少年自然の家」を丹波市が引き継ぐ</p> <p>丹波少年自然の家は、阪神・丹波地域の子どものための健全な育成並びに都市と農村の生活及び教育の交流を図ることを目的として、昭和54年に設立された。その後、40年以上もの長きにわたり、学校や家庭では得がたい体験ができる自然学校の場として活用され、延べ200万人を超える利用があった。しかしながら、少子化の進行や施設の老朽化により、丹波少年自然の家事務組合が令和5年度末をもって解散することに伴い、令和6年度からは丹波市が施設を引き継ぐことを決めた。今後は、丹波市において、地域振興に資する施設としての利活用をめざしていく。</p>
●	<p>道の駅「丹波おばあちゃんの里」来場者数500万人達成</p> <p>平成18年4月にオープンした道の駅「丹波おばあちゃんの里」は、令和5年10月23日、来場者数が500万人に達した。</p> <p>500万人目の利用者は、東大阪市から来丹された家族で、記念セレモニーでは、丹波市の特産品詰合せや丹波市共通商品券を贈呈した。</p> <p>道の駅「丹波おばあちゃんの里」は令和4年3月のリニューアルオープン後、来場者数が増加傾向であり、今後も指定管理者と連携し、地域活性化の拠点施設として取り組みを進める。</p>
●	<p>パートナーシップ宣誓制度の開始 -誰もが自分らしく生きられる社会へ-</p> <p>令和5年4月に、性的マイノリティに係る「丹波市パートナーシップ宣誓制度」を開始した。</p> <p>互いを人生のパートナーとして、日常生活において相互に協力し合うことを約束した二人に対し、自分らしく幸せに生活できることを、市として応援していこうとするものである。</p> <p>法的な効力を有するものではないが、市民一人ひとりの人権と個性を尊重し、性的マイノリティの方への周囲の方の理解が深まることを期待している。</p>
●	<p>普通河川 北柏原川調節池の完成</p> <p>河川の氾濫に対する周辺地域の浸水被害の軽減を目的として、道路の嵩上げと貯留機能の確保のため、柏原町田路地内において、令和3年9月から工事着手した調節池の築造工事が令和5年2月に完成した。</p> <p>これにより、これまで冠水していた市道の通行が可能となり、また調節池の完成により下流域に対しての浸水被害の軽減が期待される。</p>
●	<p>物価高騰の影響を受ける市民・事業者への支援</p> <p>エネルギー・食料品等の価格高騰の影響を受けた市民や事業者に対して、実情に合わせて必要な支援を国の交付金を活用し、迅速かつきめ細やかに実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯、低所得世帯等への支援（国事業） ・認定こども園等給食食材費、通園バス利用料、学校給食食材費の負担軽減 ・プレミアムたんばコインの発行支援 ・福祉事業所、認定こども園等、中小企業者、公共交通事業者の光熱費、燃料費に対する一部補助 ・農業者への支援